

2015年11月10日

各 位

三井住友ファイナンス&リース株式会社

埼玉県とのスマート水素ステーション設備のリース方式による導入事業の件

三井住友ファイナンス&リース株式会社(取締役社長:川村 嘉則、以下「SMFL」)は、埼玉県向けにリース方式による水素ステーション設備の導入事業を開始することに埼玉県と合意し、同設備の賃貸借契約を締結しました。

本事業は、SMFLが代表事業者、埼玉県が共同事業者となり、環境省が経済産業省と連携して進める「平成27年度 地域再エネ水素ステーション導入事業」に係る補助事業者に採択されており、同事業におけるリース方式による導入は日本初のケースとなります。

リース対象となるスマート水素ステーションは、水と電気で高圧な水素を製造する設備で、パッケージ化(小型化)することにより、設置工事期間を大幅に短縮するとともに設備の設置面積を大幅に削減することができます。また、既存の太陽光発電設備を活用することで水素の製造工程においてもCO₂は殆ど発生しません。

水素は、利用段階においてCO₂を排出せず、効率的なエネルギー利用や再エネ貯蔵等に活用できるなど地球温暖化対策として重要なエネルギーです。スマート水素ステーションでは、製造から利用までCO₂を殆ど排出しないことから、低炭素な水素サプライチェーンの普及に資するとともに地域での水素利用を推進することができます。

SMFLは、リース事業を通じて低炭素な水素社会の実現に貢献できるように今後とも取り組んでまいります。

以上

<お問い合わせ先>

広報IR推進室 五十嵐 TEL 03-5219-6334